

大昔の暮らし | 国づくりへの歩み①

1 単元の概要

縄文時代と弥生時代の遺物などを比べながら、人々の暮らしの様子について話し合い、児童の歴史に対する興味・関心を高めていきます。狩りや漁をしていた暮らしや米づくりを始めたころの人々の暮らしの変化、むらからくにへの統合の過程、巨大古墳の広がりなどについて調べ、古代の人々がどのようにして国づくりをしていったかをとらえさせ、歴史を学ぶことの楽しさを感じながら学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 農耕の始まりや古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子を理解させる。
- 大昔の人々の生活の知恵や工夫を学ぶ学習、博物館や郷土資料館等を活用して遺跡や遺物などを観察する学習、身近な地域に残る古墳について調べる学習など体験的な活動を通して、大昔の人々の暮らしや社会の様子が分かるようにする。



縄文人と弥生人

3 指導計画（総時数7時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 想像図を基に、大昔の人々の暮らしの様子について話し合う。	○ 想像図を基に、住居や集落の様子、村人の仕事の様子などを視点に話し合わせる。	オリエンテーション 1時間
II 縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子について話し合う。	博物館での学習 ○ 縄文時代と弥生時代の展示物の違いから人々の暮らしや社会がどのように変化したのかについて考えさせる。 ◆ 資料「縄文人と弥生人」 ◆ テーマ館「旧石器時代から古墳時代の北九州」コーナー ◆ 探究館「弥生時代の暮らし」	1時間
III むらの様子や変化について調べる。	◆ 探究館映像「弥生のムラの日」	1時間
IV 豪族がほうむられた古墳は、どのようなものだったのか調べる。 ① 日明一本松塚古墳の石室の大きさから古墳作りの様子を想像する。 ② 出土品のふるさとを調べる。	○ 石室から古墳の大きさを実感させ、古墳作りの様子を想像させる。 ○ 出土品などから大陸の文化などの影響について考えさせる。	1時間
③ 大山古墳や大和朝廷による国土の統一について調べる。	◆ テーマ館「先史・原史コーナー」パネル「前方後円墳の出現」など	1時間
V 調べたことをもとにして、歴史新聞をつくり、大昔の人々の暮らしの変化について話し合う。	◆ 博物館のパンフレットや博物館で撮影した写真などを活用する。	2時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子を比べてみよう。		博物館での学習 1時間
I 弥生時代の暮らしの展示から、当時の暮らしの様子を想像する。	○ 弥生時代の暮らしの展示物をもとに、当時の人々の暮らしを調べさせる。 ○ 展示資料を調べて分かったことをワークシートの1に書くようにする。	◆復元住居 ※1 ◆復元住居内の家族 ※2
II 縄文時代と弥生時代の展示物を調べる。	○ 縄文時代と弥生時代を土器や道具（石器、鉄器・青銅器などの金属器、木製農具など）、食べ物、住居などの視点で調べさせ、それぞれの特徴や変化に気づくようにする。 ○ 探究館展示「弥生時代の暮らし」や映像資料などの展示からも当時の暮らしの情報を見つけさせる。	◆縄文の食べ物、弥生の食べ物 ◆縄文土器 ◆弥生土器 ◆縄文カレンダー ◆石器 ◆木製農具
III 縄文時代と弥生時代の展示物を比べて気付いたことや考えたことを出し合い、人々の暮らしや社会がどのように変化したかについて話し合う。	○ 縄文時代と弥生時代の二つの時代を比べさせることから、人々の暮らしがどのように変化したのか想像し、ワークシート3に書くようにする。	◆復元住居 ◆復元住居内の家族 ◆家族の会話 ◆映像資料「弥生の暮らし」※3

※1 探究館の展示詳細については、P44「探究館の展示案内1」をご覧ください。
 ※2 家族の会話詳細については、P45 P46「探究館の展示案内2・3」をご覧ください。
 ※3 探究館展示映像詳細については、P47 探究館展示映像「弥生の暮らし」をご覧ください。

5 博物館での学習

縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代の人々の生活や社会の様子を比べてみよう。

博物館での学習 1時間



弥生時代の復元住居

「大昔の暮らし」は、狩猟・採集生活から農耕の始まり、それに伴う暮らしや社会の変化への興味、どこか冒険心をくすぐるような思いなど、子どもたちはワクワクしながら学ぼう。歴史学習の第一歩となるこの学習では、何よりも子どもたちのそうした興味・関心を大切に、具体的な活動や体験を生かしながら学習を進めていく必要があります。

探究館は、ドングリのアクを抜くための大規模な「水さらし場」が見つかった北九州市小倉南区長野小西田遺跡をモデルに、弥生時代の住居を実物大で復元して

あり、弥生時代の暮らしや当時の雰囲気を体感することができます。展示を見るだけでなく、住居内の家族の会話に耳を傾けたり、周りのスクリーンの映像にも目を向けたりすることができます。まず、この探究館で当時の暮らしの様子を実感をもって想像させ、ワークシート1に気付いたことや感じたことを書きこませます。「探究館展示案内」の資料も、事前の準備に活用することができます。

テーマ館「旧石器時代から古墳時代の北九州」コーナーでは、発掘された資料をもとに、北九州とその周辺で展開された縄文時代や弥生時代の人々の暮らしについて説明されています。

ここでは、縄文時代と弥生時代の展示について、道具・土器・食べ物・住まいなどの視点で調べ、表にまとめていきます。



縄文土器



弥生土器



縄文カレンダー



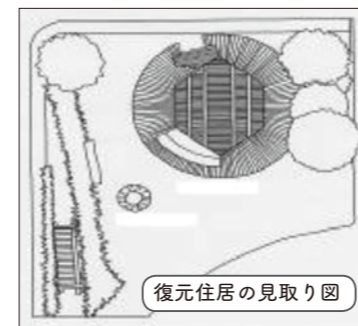
縄文人と弥生人



弥生時代の木製農具

縄文時代と弥生時代の二つの時代を比べさせることから、人々の暮らしがどのように変化したのかを想像し、ワークシート3に書き、その後人々の暮らしや社会がどのように変化したかについて話し合います。

1 弥生時代の暮らしの展示から当時の暮らしの様子を想像してみよう。



復元住居の見取り図

復元住居やコーナーの中で見付けたり、住居内の家族の会話や周りのスクリーンに映し出された映像を聞いたりして分かったことを書こう。

※森へ木の実、川へは魚を採りに行き、鳥は弓矢で射落としていた。など、このころの人々の生活の様子分かるような内容が書かれていればよい。

2 縄文時代と弥生時代の展示物を調べて、二つの時代を比べよう。

縄文時代や弥生時代の人々の暮らしについて調べ、表にまとめよう。

	縄文時代	弥生時代
道具	石斧・石鏃などを使っていた。	・穂摘み具の石包丁が登場。 ・青銅器・鉄器などの金属器が登場。 ・米づくりに伴い、木製農具が発達。
土器	厚くてどっしりした感じ。縄目の模様が付いているものが多い。 食物を煮るための深鉢形が基本。	薄くて硬い感じ。模様のないものもある。 ふちがついている。 貯蔵用や煮沸用など、用途ごとに特定の器種が出現。
食べ物	※シカ・イノシシ・貝・クリ・ドングリ・山菜など 狩りや漁・採集にたよっていたことをおさえるとよい。	※米・あわ・きび・クリ・ドングリ・キノコ・鳥・シカ・イノシシなどの狩りや漁・採集のほか栽培活動(米づくり)も始まったことをおさえるとよい。
住まい	定住化が進んだ。ドングリなどの貯蔵穴もあった。	竪穴住居・かやぶきの屋根、柱は6本・真中には炉があり魚を焼いていた。魚などを干していた。水さらし場やドングリなどの貯蔵穴もあった。高床の倉庫もあった。
その他	※道具・土器・食べ物・住まい以外で見付けた、縄文時代のことが書かれていればよい。 (祭祀活動、装身具、漆工芸等)	※道具・土器・食べ物・住まい以外で見付けた、弥生時代のことが書かれていればよい。 (むらとむらの争い、大陸・半島との交流等)

※ワークシートの内容を見る時の留意点

3 二つの時代の様子を比べて、人々の生活や社会の様子について考えたことや思ったことを話し合おう。

調べてみて考えたことや思ったことを書きましょう。

※食べ物の収穫方法・道具や土器の変遷など、人々の暮らしや社会が変化していることに気付いている感想が書かれてあればよい。